



- 本プレゼンテーションは情報提供目的で行われるものであり、OSCT インドネシアの許可なく配布してはならない。
- ここに挙げられる企業および製品の名称は、それぞれの所有者の商標でもある可能性がある。



最近の国境近くにおける油流出対応 インドネシアでの教訓

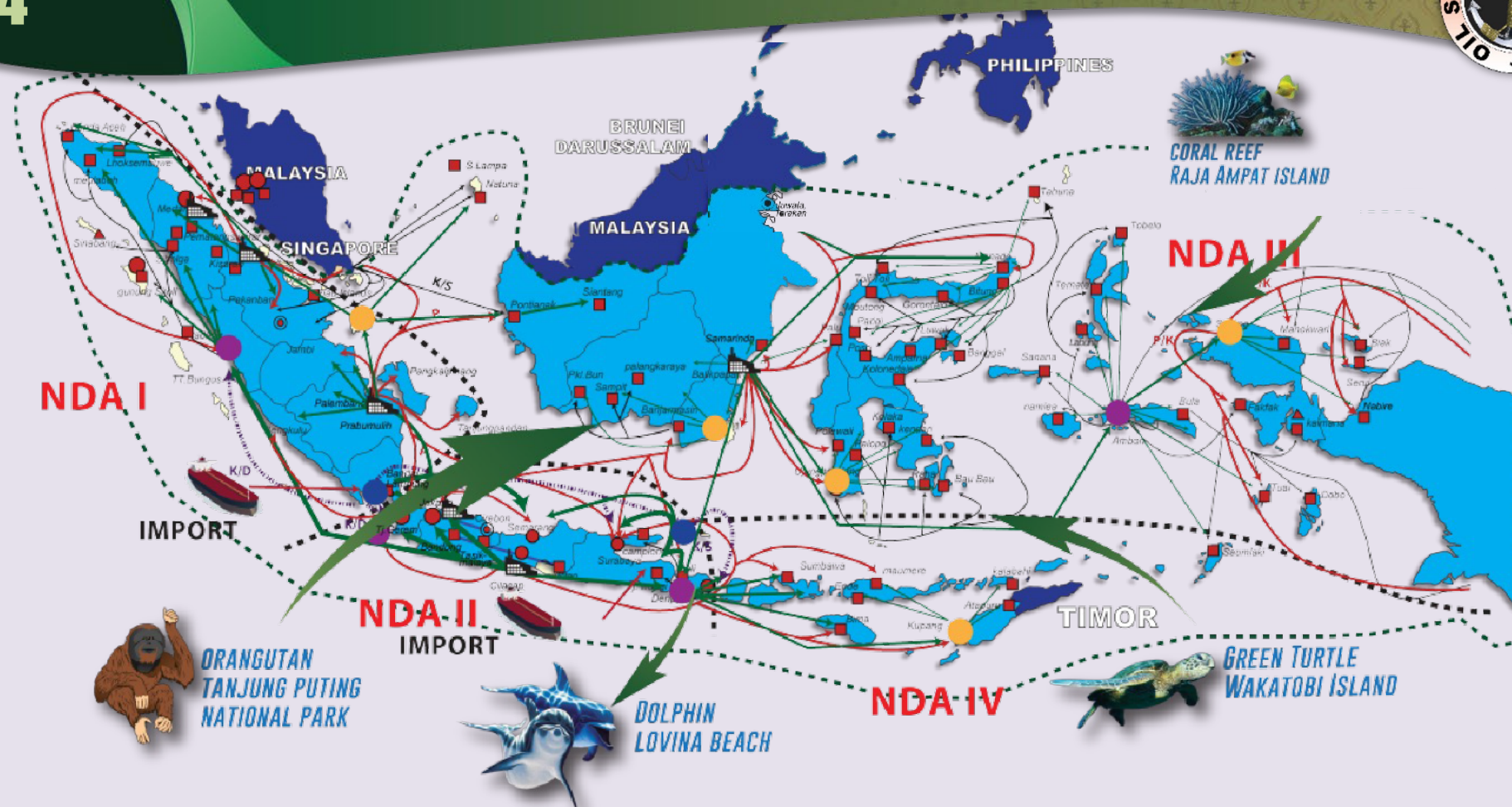
石油連盟

2023年2月－油流出ワークショップ





インドネシア油流出対応チーム(OSCTインドネシア)は西ジャワ州に本社を置き、インドネシア全国に8か所の拠点をもち油流出対応センターである。OSCTはインドネシアにおいて44,000メートル以上のオイルフェンス、122台のスキマー、そして訓練を受けた170人の対応要員を有している。



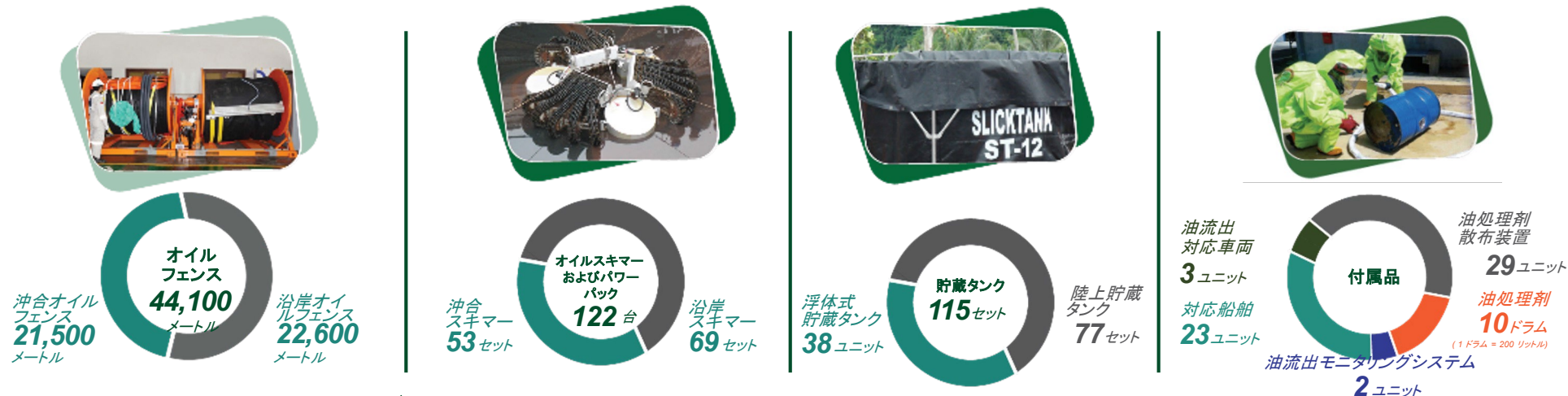
凡例

= FUEL DEPOT	= REFINERY UNIT	= CRUDE OIL DISTRIBUTION CHANNELS	= JOBBER	= Indonesia Border	NDA = NATIONAL DISTRIBUTION AREA
= TT/INSTALLATION	= FLOATING STORAGE	= REFINED OIL PRODUCT DISTRIBUTION CHANNELS	= TRANSIT TERMINAL	= BACK LOADING TERMINAL	P: PETROL K: KEROSENE D: DIESEL

日産100万バレルの石油生産を目指すインドネシア政府の目標達成を支援するべく、インドネシア最大かつ世界最大級の流出対応センターとしてインドネシアおよび世界の自然環境を保護することが我々の使命である。国土の85%を海洋が占めるインドネシアは、環境脆弱区域や世界遺産地域を汚染する可能性のある、石油・ガス関連事業による流出汚染の大きなリスクにさらされている。



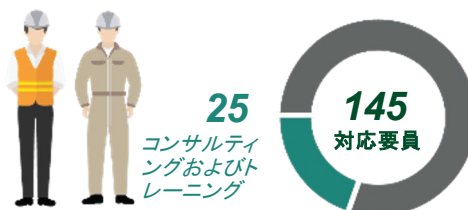
油・化学物質流出対応資機材



トレーニング



専門家



油流出緊急時対応計画



顧客および会員

66
顧客
48
会員



認定



国家油流出対応センターとしてのOSCTの能力は運輸省、エネルギー・鉱物資源省によって認められており、Nautical InstituteによりIMO基準に基づく国際認証を受けている。

6

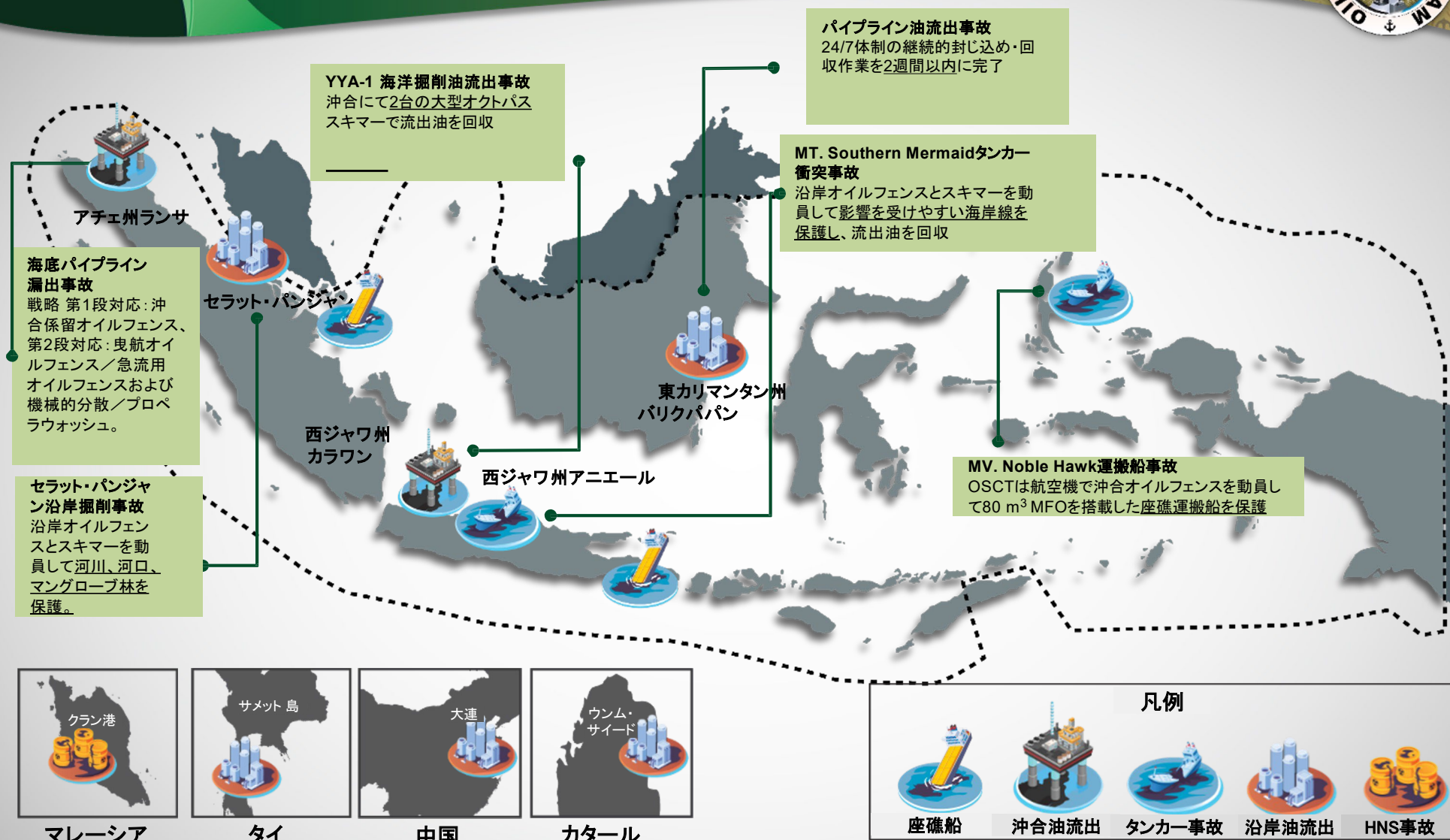
相互協力



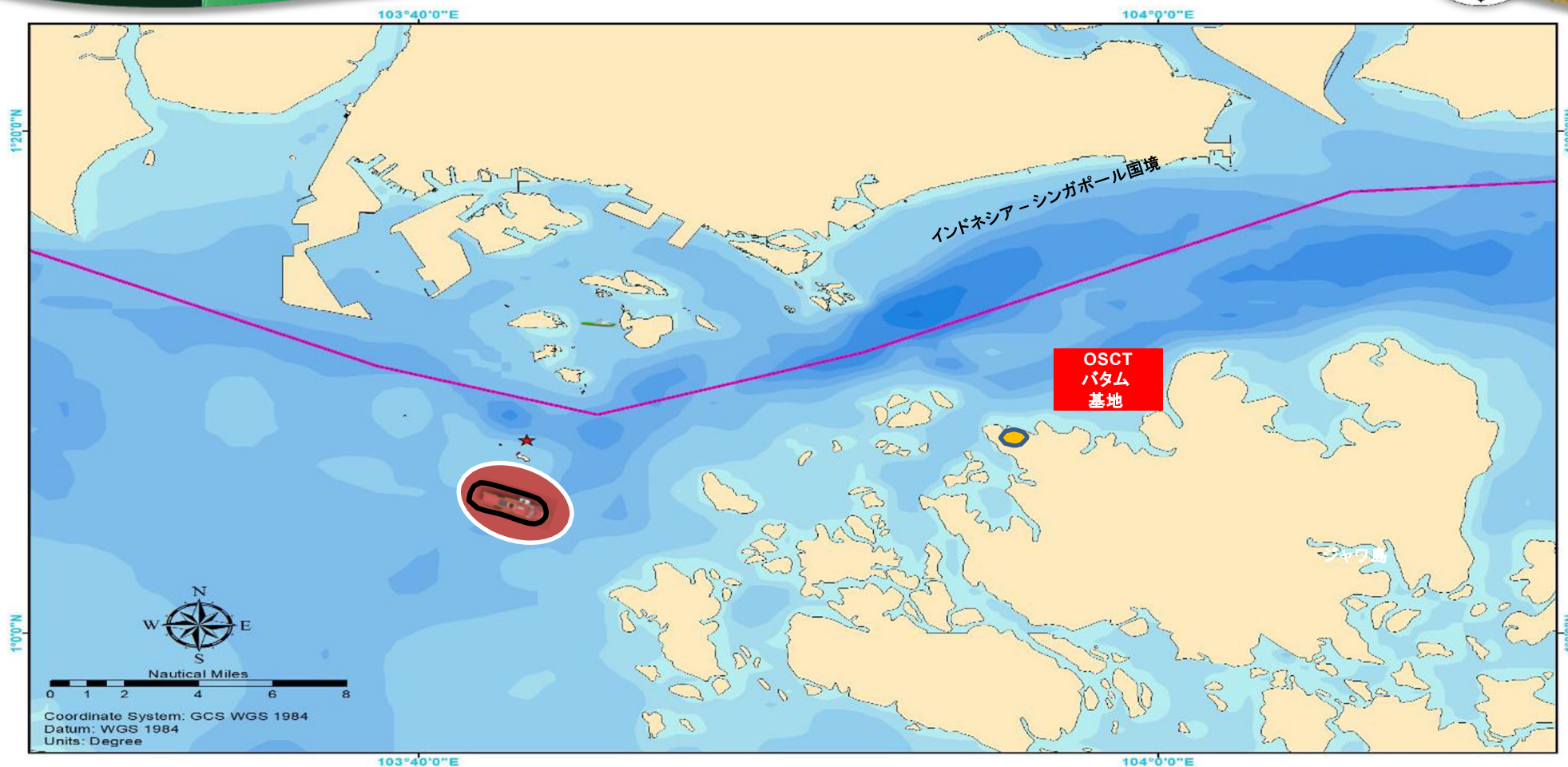
現在OSCTインドネシアは7か国の国際的 oil 流出対応機関OSROと、効果的で効率的な対応を実現するための相互協力・支援に関する国際協力覚書を締結している。



OSCTインドネシアは大規模な国際的な油流出があった場合にタイ、ベトナム、韓国、マレーシア、シンガポール、香港、日本、中国を含むアジア太平洋地域のOSREを動員することができ、国境近くで掘削・生産活動を行っている会員を支援することができる。



OSCTは石油・ガス関連事業に関係する油流出事故対応の経験を積んでおり、セラット・パンジャンー沿岸掘削事故、バリクパパンーパイプライン破断事故、アニエールータンカー衝突事故、バリー運搬船座礁事故などに対応している。大規模な油流出としては、西ジャワ州のジャカルタ近くでの沖合流出、アチエ州ー海底パイプライン漏出、そして最近のリアウ諸島バタム海域での座礁船による油流出がある。



流出源

座礁船

場所

バタム海域

発生日

2022年10月26日

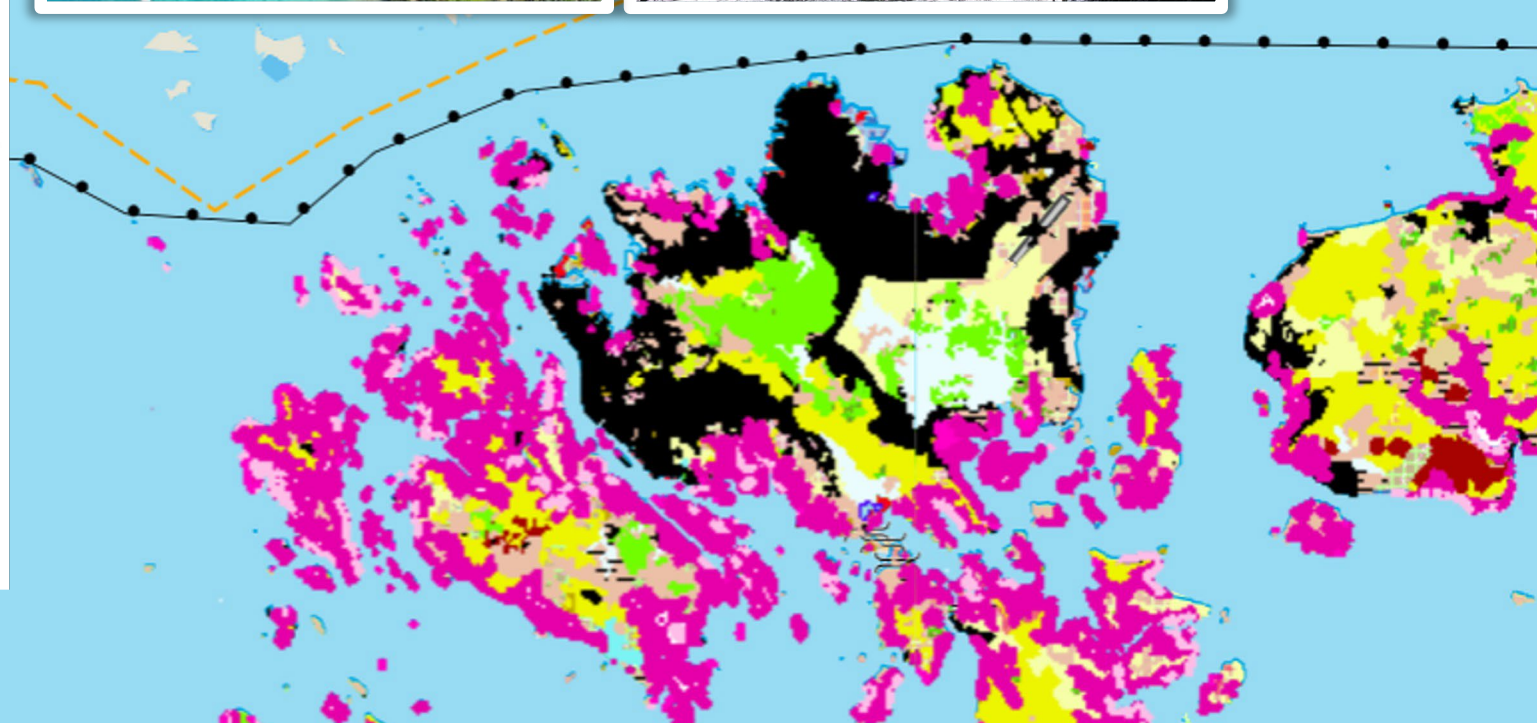
油種

中質原油





- Hutan Lahan Kering Primer
- Hutan Lahan Kering Sekunder
- Hutan Rawa Primer
- Hutan Rawa Sekunder
- Hutan Mangrove Primer
- Hutan Mangrove Sekunder
- Semak/Belukar
- Semak/Belukar Rawa
- Savana
- Hutan Tanaman
- Perkebunan
- Pertanian Lahan Kering
- Pertanian Lahan Kering Bercampur dgn Semak
- Transmigrasi
- Sawah
- Tambak
- Tanah Terbuka
- Pertambangan
- Permukiman
- Tubuh Air
- Rawa
- Awan
- rawa
- Transmigrasi



海岸線が流出源に最も近いのはTokong Besar、Tokong Kecil、Labun Besar、Labun Kecil、Pemping Islandで、観光客用ビーチがあり、集落やマングローブ林が存在する。海岸線の浜辺はほとんどが湿地帯である。



流出評価・検知・監視

封じ込め・回収

海岸線モニタリング・
影響を受けやすい
海岸線の保護

機械的分散／プロペラ
ウォッシュ



© Google Picture提供



© OSCTインドネシア提供

10月
26日

MT Young Yongからタンジュン・バライ沿岸警備隊に対し、船がバタム海域で座礁したこと、油の流出が海岸線そして国境の向こう側にも影響を及ぼす懸念のあることが知らされた。

10月
28日

OSCTは流出方向を予測するために軌道モデルを作成し、海岸線に影響を及ぼす前の対応戦略を提言した。



© Portonews提供



11月1-3日

保護オイルフェンス戦略の実現。最も近くにある環境脆弱区域を考慮し、沿岸オイルフェンスを使用して船を取り囲む。

11月4日

流出源閉鎖戦略は成功した。

OSCTは2022年10月28日に始動し、流出油の動きを確認するための軌道モデル作成と並行して現場での支援活動も行った。タンジュン・バライ沿岸警備隊も加わって、対応やモニタリング、他の関係者との調整に当たった。事故は適切に処理され、環境脆弱区域には一切到達しなかった。



沖合オイルフェンス



© OSCTインドネシア提供

21,500メートル

沖合スキマー



© OSCTインドネシア提供

53セット(大型オクトパス4台)

沿岸オイルフェンス



© OSCTインドネシア提供

22,600メートル

沿岸スキマー



© OSCTインドネシア提供

69セット

油処理剤



© OSCTインドネシア提供

14,800リットル

Tier-2/3対応において21 kmの沖合オイルフェンスと22 kmの海岸線オイルフェンスを国内で用意できる。
OSCTインドネシアの資機材は様々な油流出事故に対応可能。



油流出対応計画と準備体制

油流出対応トレーニング



© OSCTインドネシア提供

ロジスティクスおよびステージングマップ作成

効果的な対応戦略



© OSCTインドネシア提供



24時間受付緊急通報番号

+62812 80004444
+6221 89902444

ウェブサイト: www.osct.com

Eメール: info@osct.com

TERIMA KASIH

THANK YOU

ありがとう

ขอขอบคุณ

Cảm Ơn

고맙습니다

Спасибо

Kiitos

Merci

شكرا لك

Gracias

谢谢

対応を成功させるための
鍵となるのは準備体制

